

jpa：日本心理学会指定書式風
BibL^AT_EX スタイル

芝田征司

2024 年 4 月 10 日

目次

1	使用環境の準備	3
1.1	スタイルファイルの設置	3
1.2	文書ファイルへの読み込み	3
1.3	文献ファイルの指定	3
1.4	文献リストの作成	4
2	文献の引用	4
2.1	本文の一部として引用する	4
2.2	括弧に入れて引用する	5
2.3	括弧なしで引用する	5
2.4	その他の引用方法	6
3	文献ファイルの作成	6
3.1	エントリ形式の基本	6
4	各文献タイプのエントリ例	8
4.1	書籍	8
4.1.1	一般的な例	8
4.1.2	新・改訂版	10
4.1.3	編集書	11
4.1.4	編集書中の特定章	12
4.1.5	数巻にわたる書籍	14
4.1.6	数巻にわたる書籍の特定の1巻	15
4.1.7	翻訳書	19
4.1.8	再版	24
4.1.9	自費出版	25
4.2	逐次刊行物	25
4.2.1	論文	25
4.2.2	年間に2冊以上刊行があるが巻数がない場合	28
4.2.3	年報・年鑑	29
4.2.4	紀要, その他	30
4.3	オンライン資料	30
4.3.1	刊行された冊子体がある場合	30
4.3.2	オンライン早期公開	30
4.3.3	プレプリントされている文献	32
4.3.4	オンラインでのみ閲覧可能で doi がある場合	33
4.3.5	オンラインでのみ閲覧可能で, doi がない場合	34

4.4	その他	35
4.4.1	学位論文	35
4.4.2	学会発表	36
4.4.3	印刷中の論文	38
4.4.4	新聞記事および雑誌記事の引用	39

はじめに

これは、日本心理学会が発行する『執筆・投稿の手びき』の指定フォーマットにそって文献リストを作成するための Bib \LaTeX 用スタイルファイルです。このスタイルを用いることで、日本語文献と英語文献が混在している場合でも、日本心理学会のフォーマットにそった引用および文献リストの作成が可能です。

なお、このスタイルファイルは著者（芝田）が個人的に作成したものであり、日本心理学会によるものではありません。このスタイルファイルについて日本心理学会に問い合わせたりすることのないようにしてください。

また、できる限り日本心理学会の書式にそうように作成してありますが、このスタイルファイルによる文献リストがそのまま受理されることを保証するものではありませんので、その点ご注意ください。

1 使用環境の準備

ここでは \LaTeX を使用する場合における設定方法や使用方法について説明します。RMarkdown で PDF を作成する場合の使用方法については、RMarkdown のマニュアルなどを参照してください。

1.1 スタイルファイルの設置

jpa スタイルファイルは、.bbx, .cbx, .dbx の 3 つのファイルで構成されています。.bbx ファイルには文献リスト作成のための書式、.cbx には文章中での文献引用に関する書式が含まれており、.dbx はこのスタイルで使用する追加フィールドに関する情報が含まれています。jpa スタイルを使用するには、これら 3 つのファイルを、 \LaTeX の管理下にあるフォルダにコピーしてください。

1.2 文書ファイルへの読み込み

論文などで jpa スタイルファイルを使用するには、プリアンブルに次のように指定してください。

```
\documentclass[a4paper]{jlreq}
\usepackage[backend=biber,style=jpa]{biblatex}
```

1.3 文献ファイルの指定

文献リストの作成に使用する文献ファイルは、Bib \LaTeX 形式で指定します。文書のプリアンブルに、次のように使用する .bib ファイルを指定するだけです。

```
\addbibresource{文献.bib}
```

1.4 文献リストの作成

文書に文献リストを追加するには、文献リストを追加したいところで次のように指定します。

```
\printbibliography[title=引用文献]
```

「title=」の部分は、文献リストの見出しの設定です。「title=」を省略した場合、文献リストの見出しは「参考文献」となります。

ここまでの設定を含む、最小限の文書ファイルは次のようになります。ここでは、文書ファイルと同じ場所に文献ファイル「文献.bib」があるものとします。

```
\documentclass[a4paper]{jlreq}
\usepackage[backend=biber,style=jpa]{biblatex}
\addbibresource{文献.bib}
\begin{document}
こんにちは
\printbibliography[title=引用文献]
\end{document}
```

2 文献の引用

このセクションでは、本文中における文献引用コマンドの使用方法について説明します。jpa スタイルでは独自の引用コマンドを追加したりしていませんので、Bib_{La}T_EX の引用コマンドがそのまま使えます。

2.1 本文の一部として引用する

たとえば、「中沢 1978」というキーをもつ文献を本文の一部として引用したい場合には、`\textcite{}` コマンドを用いて次のように書きます。

```
\textcite{中沢 1978}によれば、これまでの研究において……
```

これは次のように表示されます。

中沢他 (1978) によれば, これまでの研究において……

なお, `\textcite{}` コマンドの引数にコンマ区切りで複数の引用キーを指定した場合, あるいは `\textcites{}` コマンドで複数の文献を一度に引用した場合には, それぞれの文献情報の間に「と」や「および」などの区切り文字が挿入されます。たとえば, 「`\textcite{齊藤 2019, 森川 2010}`」のようにして 2 つの文献を一度に引用した場合, 本文中の表示は次のようになります。

森川 (2010) と齊藤 (2019) によれば, これまでの研究において……

また, 「`\textcite{齊藤 2019, 森川 2010, 坂野 1994}`」のように 3 つ以上の文献を一度に引用した場合, 本文中の表示は次のようになります。

森川 (2010), 齊藤 (2019), および坂野他 (1994) によれば, これまでの研究において……

2.2 括弧に入れて引用する

文末に括弧に入れて文献情報を示したい場合には, `\parencite{}` コマンドを使用します。

……であることが示されている `\parencite{藤永 2013}`。

これは, 次のように表示されます。

……であることが示されている (藤永, 2013)。

複数の文献を一度に引用したい場合は, 複数のキーをコンマ区切りで並べます。その際, 文献の記載順序は自動的に著者名のアルファベット順にソートされます。

……ということである `\parencite{坂本 2013, 松井 2010}`。

……ということである (松井, 2010; 坂本, 2013)。

2.3 括弧なしで引用する

`\parencite{}` コマンドでは, 文献情報の前後に括弧が自動的に挿入されますが, そうしたくない場合もあるでしょう。その場合には, `\cite{}` コマンドを使用することで, 前後の括弧を非表示にできます。その場合, 文献情報の前後の括弧は自分で入力する必要があります。

……ということである (`\cite{坂本 2013, 松井 2010}`)。

……ということである (松井, 2010; 坂本, 2013)。

2.4 その他の引用方法

BibLaTeX では、これ以外にもさまざまな引用コマンドが用意されています。それらすべてのコマンドには対応しきれていませんが、著者名の特殊な並びや表記を目的とした引用コマンドでない限りは機能すると思いますので、いろいろと試してみてください。BibLaTeX の引用コマンドの詳細については、BibLaTeX のマニュアルを参照してください。

なお、日本心理学会の書式では、「山田 太郎」と「山田 次郎」のように、同姓の著者による文献が存在する場合で、出版年も同じである文献については、「山田太郎 (2021)」と「山田次郎 (2021)」のように、筆頭著者をフルネームで表示することになっていますが¹⁾、同姓の別著者による文献であっても、出版年が異なっている場合には、「山田太郎 (2021)」や「山田次郎 (2022)」のように書かず、「山田 (2021)」や「山田 (2022)」と書くことになっています。

しかし BibLaTeX では著者姓の重複のみがチェックされるため、このような区別ができません。同姓別著者で出版年まで同じというケースは非常に稀だと思われるので、jpa スタイルでは、著者名の曖昧さ回避は働かないように設定してあります。もし著者名の曖昧さ回避が必要な場面に遭遇した場合には、次のように `\cite*{}` コマンドで文献の出版年のみを表示させ、著者名については手動で書くといった形で対処する必要があります。

……ということである (山田太郎, `\cite*{山田太郎 2021}`; 山田次郎, `\cite*{山田次郎 2022}`)。

……ということである (山田太郎, 2021; 山田次郎, 2022)。

なお、筆頭著者が同じでも、第 2, 第 3 著者まで表記すれば区別できるようなケースについては、区別可能なところまで著者名を記載することになっていますが、こちらについては BibLaTeX が問題なく自動的に処理してくれます。

3 文献ファイルの作成

BibLaTeX による文献リスト作成で一番重要な部分は、文献ファイル (.bib) をしっかり作成して管理しておくことです。文献ファイルが適切な形で作成されていないと、文献リストに必要な情報を正しく記載できません。このセクションでは、jpa スタイル用に (.bib) を作成する際の注意点について説明します。

3.1 エントリ形式の基本

BibLaTeX の .bib ファイルは、一部に仕様の変更や拡張が行われていますが、基本的には BibTeX で用いられるものと同じです。典型的には、次のような形で文献情報を入力します。

1) 英文の場合は、まずはファーストネームのイニシャルを使用し、それでも同じ場合にフルネームを使用します。

```
@article{矢嶋 2013,
  author = {矢嶋, 美保 and 長谷川, 晃},
  sortname = {Yajima, Miho and Hasegawa, Akira},
  date = {2013},
  title = {家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響},
  subtitle = {日本の親子のデータを用いた検討},
  journal = {感情心理学研究},
  volume = {27},
  number = {3},
  pages = {83-94},
  doi = {10.4092/jsre.27.3_83},
  language = {japanese},
```

`author` に著者情報, `title` に論文タイトルというように, それぞれのフィールドに対応する内容を入力していきます。日本語の文献の場合, 著者名は「姓, 名」のようにコンマで区切って記載します。また, このままでは著者名のソートができませんので, `sortname` フィールドにローマ字表記で著者情報を入力します。このとき, 著者名は「Yajima, Miho」と「Miho Yajima」のどちらの形式でも問題ありません。

日本語文献では, 必ず `language` フィールドに `japanese` と入力してください。この情報がないと, この文献を日本語文献として適切に扱うことができません。英語文献の場合には, `sortname` や `language` は不要です²⁾。

出版年については, Bib_TEX では `year` というフィールドを用いるのが一般的でしたが, Bib_LAT_EX では `date` に置き換えられています。ただし, `year` フィールドに入力されている値も認識してくれますので, すでに作成済みの `.bib` ファイルを無理に修正する必要はありません。

なお, `year` フィールドには数字以外のものを入力しても問題ありませんでしたが, `date` フィールドの内容は日付型に限定されているため, たとえばここに「印刷中」のような内容は入力できません。印刷中の論文については, `date` フィールドは省略し, 次のように `pubstate` フィールドに「印刷中」と入力してください。

```
@article{長谷川 99,
  author = {長谷川, 龍樹 and 多田, 奏恵 and 米満, 文哉 and 池田, 鮎美 and
    山田, 祐樹 and 高橋, 康介 and 近藤, 洋史},
  sortname = {Ryuju Hasegawa and Kanae Tada and Fumiya Yonemitsu and Ayumi Ikeda
    and Yuki Yamada and Kohske Takahashi and Hirohito M. Kondo},
```

2) ただし, たとえば文献リストには「van Gogh」と記載したいけれども, 「van」は無視してソートしたいというような場合には, 外国人の名前であっても `sortname` フィールドが必要になることがあります。


```

journal = {心理学研究},
title = {実証的研究の事前登録の現状と実践},
subtitle = {OSF 事前登録チュートリアル},
pubstate = {印刷中},
language = {japanese},
}

```

また、全集など、出版年が複数年に渡る場合には、その出版年の最初と最後を次のようにスラッシュで区切って記載します。これにより、これが日付の範囲であることが認識され、適切に処理されるようになります。ハイフン (-) は使用できませんので注意してください。

```

@mvbook{Freud1956,
  author = {Freud, S.},
  date = {1956/1974},
  title = {Standard editions of complete psychological works of Sigmund Freud},
  volumes = {1-24},
  publisher = {Hogarth Press},
}

```

4 各文献タイプのエントリ例

ここからは、日本心理学会『執筆・投稿の手びき』（2022 年版）の各文献タイプの書式と、それに対応する .bib ファイルのエントリ例をみていきましょう。

4.1 書籍

書籍の文献情報は、英語文献、日本語文献ともに、著者名、刊行年、書籍名、版数（初版以外）、出版社を記載します。英文書籍の場合、書籍名はイタリック体、版は ed. で表記します。

4.1.1 一般的な例

一般的な書籍では、文献情報を次のように入力します。

```

@book{引用キー,
  author = {著者名},
  sortname = {著者名読み}, ※ 英語書籍では不要
  date = {刊行年},

```

```

title      = {書籍名},
subtitle   = {サブタイトル（省略可）},
publisher  = {出版社},
}

```

実際の入力例は次のようになります。

■ bib エントリ

```

@book{Clement2002,
  author    = {Clement, E.},
  date      = {2002},
  title     = {Cognitive Flexibility},
  subtitle  = {The Cornerstone of Learning},
  publisher = {Wiley},
}

```

出力結果

Clement, E. (2002). *Cognitive Flexibility: The Cornerstone of Learning*. Wiley

■ bib エントリ

```

@book{Rosen2015,
  author    = {Rosen, L. D. and Cheever, N. and Carrier, L. M.},
  date      = {2015},
  title     = {The Wiley Blackwell Handbook of Psychology, Technology and Society},
  publisher = {Wiley},
}

```

出力結果

Rosen, L. D., Cheever, N., & Carrier, L. M. (2015). *The Wiley Blackwell Handbook of Psychology, Technology and Society*. Wiley

■ bib エントリ

```

@book{一川| 2016,
  author    = {一川, 誠},
  sortname  = {Ichikawa, Makoto},
}

```

```

date      = {2016},
title     = {「時間の使い方」を科学する},
subtitle  = {思考は 10 時から 14 時, 記憶は 16 時から},
publisher = {PHP 研究所},
language  = {japanese},
}

```

出力結果

一川 誠 (2016). 「時間の使い方」を科学する——思考は 10 時から 14 時, 記憶は 16 時から—— PHP 研究所

4.1.2 新・改訂版

版の情報は `edition` フィールドに入力します。英語書籍の場合、版数は数字のみで構いません。日本語書籍の場合は、「第 2 版」のように入力します。

```

@book{引用キー,
  author   = {著者名},
  sortname = {著者名読み}, ※ 英語書籍では不要
  date     = {刊行年},
  title    = {書籍名},
  subtitle = {サブタイトル (省略可)},
  edition  = {版数},
  publisher = {出版社},
}

```

■ bib エントリ

```

@book{APA2013,
  author   = {{American Psychiatric Association}},
  date     = {2013},
  title    = {Diagnostic and statistical manual of mental disorders},
  edition  = {5},
  publisher = {American Psychiatric Association},
}

```

出力結果

American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.).
American Psychiatric Association

■ bib エントリ

```
@book{長谷川 2016,  
  author    = {長谷川, 寿一 and 東條, 正城 and 大島, 尚 and 丹野, 義彦 and 廣中, 直行  
},  
  sortname  = {Toshikazu Hasegawa and Masaki Tojo and Takashi Ohshima and  
               Yoshihiko Tanno and Naoyuki Hironaka},  
  date      = {2016},  
  title     = {はじめて出会う心理学},  
  edition   = {第 3 版},  
  publisher = {有斐閣},  
  language  = {japanese},  
}
```

出力結果

長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行 (2016). はじめて出会う心理学 第 3 版 有斐閣

4.1.3 編集書

英語書籍の場合、編集者は Ed. (単数) または Eds. (複数) と省略表記するのがルールですが、単数と複数の区別は BibLaTeX により自動的に処理されます。また、日本語の編集書では、編集者の他に監修者の名前が書かれていることがあります。その場合、監修者の名前を `author` フィールドに、編集者の名前は `editor` フィールドに入力します。さらに、`authortype` フィールドに監修者の役割 (監修) を入力します。なお、その際、`sortname` フィールドには監修者名も含めて入力します。

```
@book{引用キー,  
  author     = {監修者名}, ※ 監修者がいなければ省略  
  authortype = {役割}, ※ 監修者がいなければ省略  
  editor     = {編集者名},  
  sortname   = {編著者名読み}, ※ 英語書籍では不要  
  date       = {刊行年},  
  title      = {書籍名},
```

```

    subtitle = {サブタイトル (省略可) },
    edition  = {版数}, ※ なければ省略
    publisher = {出版社},
}

```

■ bib エントリ

```

@book{Osaka2007,
  editor   = {Osaka, N. and Rentschler, I. and Biederman, I.},
  title    = {Object recognition, attention, and action},
  date     = {2007},
  publisher = {Springer},
}

```

出力結果

Osaka, N., Rentschler, I., & Biederman, I. (Eds.) (2007). *Object recognition, attention, and action*. Springer.

■ bib エントリ

```

@book{堀 2009,
  author      = {堀, 洋道},
  authortype  = {監修},
  sortname    = {Hori, Hiromichi and Yoshida, Fujio and Matsui, Yutaka and
                  Miyamoto, Sosuke},
  editor      = {吉田, 富二雄 and 松井, 豊 and 宮本, 聡介},
  date        = {2009},
  title       = {新編 社会心理学},
  edition     = {改訂版},
  publisher   = {福村出版},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

堀 洋道 (監修) 吉田 富二雄・松井 豊・宮本 聡介 (編)(2009). 新編 社会心理学 改訂版 福村出版

4.1.4 編集書中の特定章

編集書の中の特定の章のみを引用する場合、@inbook タイプを使用して、章の著者、刊行年、章のタイトル、編集者、書籍名、ページ範囲、出版社を記載します。タイトルおよび書籍タイトルには、サブタイトルも設定可能です。

```
@inbook{引用キー,  
  author    = {著者名},  
  sortname  = {著者名読み}, ※ 英語書籍では不要  
  date      = {刊行年},  
  title     = {章のタイトル},  
  booktitle = {書籍のタイトル},  
  editor    = {編集者名},  
  pages     = {ページ範囲},  
  publisher = {出版社},  
}
```

■ bib エントリ

```
@inbook{Morioka2018,  
  author      = {Morioka, M.},  
  date        = {2018},  
  title       = {On the constitution of self-experience in the psychotherapeutic  
                 dialogue},  
  booktitle   = {Handbook of Dialogical Self Theory and Psychotherapy},  
  booksubtitle = {Bridging Psychotherapeutic and Cultural Traditions},  
  editor      = {A. Konopka and H. J. M. Hermans and M. M. Gonçalves},  
  pages       = {206-219},  
  publisher   = {Routledge},  
}
```

出力結果

Morioka, M. (2018). On the constitution of self-experience in the psychotherapeutic dialogue. In A. Konopka, H. J. M. Hermans, & M. M. Gonçalves (Eds.), *Handbook of Dialogical Self Theory and Psychotherapy: Bridging Psychotherapeutic and Cultural Traditions* (pp. 206-219). Routledge.

■ bib エントリ

```
@inbook{内藤 2018,
  author    = {内藤, 美加},
  sortname  = {Naito, Mika},
  date      = {2018},
  title     = {記憶の発達と心的時間移動},
  subtitle  = {自閉スペクトラム症の未解決課題再考},
  booktitle = {発達障害の精神病理 I},
  editor    = {鈴木, 國文 and 内海, 健 and 清水, 光恵},
  pages     = {77-96},
  publisher = {星和書店},
  language  = {japanese},
}
```

出力結果

内藤 美加 (2018). 記憶の発達と心的時間移動——自閉スペクトラム症の未解決課題再考—— 鈴木 國文・内海 健・清水 光恵 (編) 発達障害の精神病理 I (pp. 77-96) 星和書店

4.1.5 数巻にわたる書籍

数巻にわたる書籍は、mvbook タイプを使用してエントリを作成します。刊行年が複数年にまたがる場合には、年数をスラッシュで区切って入力します。編集者の役割（監修など）がある場合は、editortype フィールドで指定します。また、巻数を volumes フィールドに入力します。

```
@mvbook{引用キー,
  author    = {著者名},
  sortname  = {著者名読み}, ※ 英語書籍では不要
  date      = {刊行年},
  title     = {シリーズのタイトル},
  volumes   = {巻数},
  publisher = {出版社},
}
```

■ bib エントリ

```
@mvbook{Freud1956,
  author    = {Freud, S.},
  date      = {1956/1974},
```

```

title      = {Standard editions of complete psychological works of Sigmund Freud},
volumes    = {1-24},
publisher  = {Hogarth Press},
}

```

出力結果

Freud, S. (1956–1974). *Standard editions of complete psychological works of Sigmund Freud* (Vols.1-24). Hogarth Press

■ bib エントリ

```

@mvbook{野島 2018,
  editor      = {野島, 一彦 and 繁樹, 算男},
  editortype = {監修},
  sortname    = {Nojima, Kazuhiko and Shigemasu, Kazuo},
  date        = {2018/2020},
  series      = {公認心理師の基礎と実践},
  volumes     = {全 23 巻},
  publisher   = {遠見書房},
  language    = {japanese}
}

```

出力結果

野島 一彦・繁樹 算男 (監修). (2018–2020). 公認心理師の基礎と実践 (全 23 巻) 遠見書房.

4.1.6 数巻にわたる書籍の特定の 1 巻

数巻にわたる書籍のうち、1 巻のみを引用する場合は、エントリの作成方法には 2 とおりのパターンがあります。

従来型の方法 従来型 (Bib_{TEX} 型) の方法に近いやり方は、シリーズ全体の情報とその巻の情報を `incollection` タイプのエントリとして作成するというものです。この場合、対象巻の著者・編者は `author` フィールドに、シリーズ全体の編集者は `editor` フィールドに入力します。

引用する巻の著者役割が「編集者」である場合には、`authortype` フィールドに「`editor`」(外国語文献の場合) または「`編`」(日本語文献の場合) と入力します。また、シリーズ全体の編集者の役割が、「`editor`」, 「`編`」以外である場合は、`editortype` フィールドにその役割を記入します。

シリーズのタイトルは、`series` フィールドに入力します。


```
@incollection{引用キー,
  author    = {巻著者名},
  sortname  = {巻著者名読み}, ※ 英語書籍では不要
  date      = {刊行年},
  title     = {巻タイトル},
  volume    = {巻数}, ※省略可
  editor    = {シリーズ編集者},
  series    = {シリーズ名},
  publisher = {出版社},
}
```

■ bib エントリ

```
@incollection{Lamb2015,
  author      = {Lamb, M. E.},
  authortype  = {editor},
  date        = {2015},
  title       = {Socioemotional processes},
  editor      = {R. M. Lerner},
  editortype  = {Series Ed.},
  volume      = {3},
  series      = {Handbook of child psychology and developmental science},
  publisher   = {Wiley},
}
```

出力結果

Lamb, M. E. (Ed.). (2015). *Socioemotional processes* (R. M. Lerner, Series Ed.). *Handbook of child psychology and developmental science. Vol.3*. Wiley

■ bib エントリ

```
@incollection{浅野 2020,
  author      = {浅野, 倫子 and 横澤, 一彦},
  authortype  = {編},
  sortname    = {Asano, Michiko and Yokosawa, Kazuhiko},
  date        = {2020},
  title       = {共感覚},
```

```

  subtitle    = {統合の多様性},
  editor      = {横澤, 一彦},
  editortype  = {監修},
  series      = {シリーズ統合的認知},
  publisher   = {勁草書房},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

浅野 倫子・横澤 一彦 (編) (2020). 共感覚——統合の多様性—— 横澤 一彦 (監修) シリーズ統合的認知 勁草書房

related フィールドを用いる方法 上記の方法とは別に、BibLaTeX の `related` フィールドを利用してエントリを作成する方法もあります。この場合、シリーズ全体の情報は `mvbook` のエントリとして作成し、その巻の情報については `book` タイプのエントリとして作成します。そして、その巻の `related` フィールドにシリーズの引用キーを、`relatedtype` に「`mvbook`」を指定します。

この場合、`\textcite{}`などの引用コマンドには `book` で作成したその巻の引用キーを使用します。するとこの書籍が引用された際、BibLaTeX は `related` フィールドから関連書籍の情報を取り出し、それを元にしてシリーズの情報を文献リストに記載します。

シリーズ全体についてのエントリ

```

@mvbook{引用キー,
  editor      = {シリーズ編集者名},
  sortname    = {編集者名読み}, ※ この文献そのものを引用しないのであれば不要
  date        = {刊行年}, ※ この文献そのものを引用しないのであれば不要
  series      = {シリーズ名},
  publisher   = {出版社}, ※ この文献そのものを引用しないのであれば不要
}

```

引用する巻についてのエントリ

```

@book{引用キー,
  editor      = {巻著者名},
  sortname    = {巻著者名読み}, ※ 英語書籍では不要
  date        = {刊行年},
  title       = {巻タイトル},
}

```

```

publisher = {出版社},
}

```

実際には、たとえば次のような形でエントリを作成します。

■ bib エントリ

シリーズ全体

```

@mvbook{Lerner:Handbook,
  editor      = {R. M. Lerner},
  editortype  = {Series Ed.},
  series      = {Handbook of Child Psychology and Developmental Science},
}

```

引用対象

```

@book{Overton2015,
  editor      = {W. F. Overton and P. C. M. Molenaar},
  publisher   = {Wiley},
  title       = {Theory and Method},
  date        = {2015},
  volume      = {1},
  related     = {Lerner:Handbook},
  relatedtype = {mvbook},
}

```

このエントリを`\textcite{Overton2015}`として引用すると、この文献情報の文献リストにおける記載は次のようになります。

出力結果

Overton, W. F. & Molenaar, P. C. M. (Eds.). (2015). *Theory and Method* (R. M. Lerner, Series Ed.), *Handbook of Child Psychology and Developmental Science. Vol.1.* Wiley

日本語の書籍の場合も同様です。

■ bib エントリ

シリーズ全体

```

@mvbook{大山: 心理学研究法,

```

```

editor      = {大山, 正},
editortype  = {監修},
publisher   = {誠信書房},
series      = {心理学研究法},
language    = {japanese},
}

```

引用対象の巻

```

@book{箱田 2012,
  editor      = {箱田, 裕司},
  sortname    = {Hakoda, Yuji},
  date        = {2012},
  title       = {認知},
  publisher   = {誠信書房},
  number      = {2},
  language    = {japanese},
  related     = {大山: 心理学研究法},
  relatedtype = {mvbook},
}

```

このエントリを`\textcite{箱田 2012}`として引用すると、この文献情報の文献リストにおける記載は次のようになります。

出力結果

箱田 裕司 (編) (2012). 認知 大山 正 (監修) 心理学研究法 2 誠信書房

4.1.7 翻訳書

文献リストにおける翻訳書の表記の仕方は、日本語訳された書籍と他の外国語から英語に翻訳された書式とで大きく異なります³⁾が、Bib_{La}T_EX を使用すれば、適切な書式の選択は自動的行われます。

翻訳書の場合も、複数巻で構成されるシリーズの中から 1 冊を引用する場合と同様に、エントリの作成方法には従来型の方法と `related` フィールドを用いた方法の 2 とおりがあります。

従来型の方法 従来型の方法では、翻訳書の情報と原著の情報を 1 つの `book` エントリとして作成します。その際、翻訳者の名前は `translator` フィールドに入力します。日本語訳された書籍で、監訳者と訳者が別になっている場合には、`translator` フィールドに監訳者名を入力し、

3) 翻訳書では、本文中への引用形式も日本語書籍と英語書籍とで異なります。

translator_{type} を「監訳」にしてください。監訳者以外の翻訳者名は、translator_a フィールドに入力します。

なおこの場合、author フィールドには、翻訳者ではなく原著者の名前を入力してください。日本語訳された書式の場合、author フィールドには原著者名をカタカナ表記で入力し、原語表記の原著者名は origauthor フィールドに入力します。

翻訳書の出版年は date フィールド、原書の出版年は origdate フィールドを使用してください。日本語訳された書籍の場合には、origtitle（原書タイトル）と origpublisher（原書の出版社）の情報も必要です。

@book{引用キー,

```
author      = {原著者名}, ※ 日本語の翻訳書ではここはカタカナ
origauthor  = {原著者名}, ※ 原語表記（英訳書の場合は記載不要）
sortname    = {原著者名読み}, ※ 英訳書では不要
origdate    = {原書出版年},
origtitle   = {原書タイトル}, ※ 英訳書では不要
origpublisher = {原書出版社}, ※ 英訳書では不要
translator  = {翻訳者名},
date        = {翻訳書出版年},
title       = {翻訳書タイトル},
publisher   = {出版社},
```

}

実際の文献の例は次のとおりです。なお、これは英訳された書籍の例ですが、sortname フィールドを使用しています。これは、原著者名を von Helmholtz の形で引用するために著者名の「von Helmholtz」の部分で{ }でくくっているためです。この場合、そのままでは著者名順に文献をソートする際に「von Helmholtz」がキーワードとして用いられることになるのですが、sortname フィールドに{ }を含まない形で著者名を記入することで、それを回避しているのです。

なお、この場合には、本文中の引用部分は「von Helmholtz (1910/1925)」の形で表示されます。

■ bib エントリ

@book{Helmholtz1925,

```
author      = {{von Helmholtz}, H.},
sortname    = {von Helmholtz, H.},
origdate    = {1910},
translator  = {J. P. C. Southall},
translatortype = {Ed., \& Trans.},
```

```

date          = {1925},
title         = {Treatise on Physiological Optics},
volume        = {3},
publisher     = {Optical Society of America},
}

```

出力結果

von Helmholtz, H. (1925). *Treatise on Physiological Optics* (Vol.3, J. P. C. Southall, Ed., & Trans.). Optical Society of America. (Original work published 1910)

日本語に翻訳された書籍の場合のエントリは次のようになります。この場合、本文中の引用部分は「Izard (1991 荘厳監訳 1996)」のように表示されます。

■ bib エントリ

```

@book{Izard1991,
  author       = {イザード, C. E.},
  sortname    = {Izard, C. E.},
  origauthor   = {Izard, C. E.},
  origdate    = {1991},
  origtitle    = {The psychology of emotions},
  origpublisher = {Plenum Press},
  translator   = {荘厳, 舜哉},
  translatorortype = {監訳},
  translators = {比較発達研究会},
  date        = {1996},
  title       = {感情心理学},
  publisher   = {ナカニシヤ出版},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

Izard, C. E. (1996). *The psychology of emotions*. Plenum Press.

(イザード, C. E. 荘厳 舜哉 (監訳) 比較発達研究会 (訳) (1996). 感情心理学 ナカニシヤ出版)

related フィールドを用いる方法 翻訳書のエントリに related フィールドを使用する場合には、原書の情報と翻訳書の情報をそれぞれ別の book タイプのエントリとして作成し、翻訳書の related フィールドに原書の引用キーを入力します。また、これが翻訳書であることを示すため

に、relatedtype フィールドに「translationof」と入力してください。

翻訳書のエントリでは、author フィールドには原書の著者名を、翻訳者の名前は translator フィールドに入力します。日本語の翻訳書の場合、author フィールドは原書の著者名をカタカナで入力してください。なお、related フィールドを使用する場合には、原書著者名の原語表記は related フィールドを介して取得されますので、origauthor フィールドに別途入力したりする必要はありません。

原書のエントリ

```
@book{引用キー,  
  author    = {著者名},  
  sortname  = {著者名読み}, ※ この文献そのものを引用しないのであれば不要  
  date      = {刊行年},  
  title     = {書籍タイトル}, ※ 英訳書の原書の場合には不要  
  publisher = {出版社}, ※ 英訳書の原書の場合には不要  
}
```

翻訳書のエントリ

```
@book{引用キー,  
  author    = {著者名},  
  sortname  = {著者名読み}, ※ この文献そのものを引用しないのであれば不要  
  date      = {刊行年},  
  title     = {書籍タイトル}, ※ 英訳書の原書の場合には不要  
  publisher = {出版社}, ※ 英訳書の原書の場合には不要  
}
```

このタイプの文献を引用する場合は、翻訳書の引用キーを使用してください。たとえば、次の例では、原書の引用キーである「Katz1930」ではなく、翻訳書の引用キー「Katz1935」を使用して引用します。その場合、本文中の引用書式は「Katz (1930/1935)」のようになります。

■ bib エントリ

原書のエントリ

```
@book{Katz1930,  
  author    = {Katz, D.},  
  date      = {1930},
```

```
}
```

翻訳書のエントリ

```
@book{Katz1935,  
  author      = {Katz, D.},  
  translator  = {R. B. MacLeod and C. W. Fox},  
  publisher   = {Kegan Paul},  
  title       = {The world of colour},  
  date        = {1935},  
  related     = {Katz1930},  
  relatedtype = {translationof},  
}
```

出力結果

Katz, D. (1935). *The world of colour* (R. B. MacLeod & C. W. Fox Trans.). Kegan Paul. (Original work published 1930)

また、日本語訳された書籍の場合には次のようになります。英訳された書籍の場合と違い、日本語訳された書籍の場合には原書の情報をすべて表示する必要がありますので、原書のエントリにもタイトルや出版社などの情報をすべて記入します。この場合、文献の引用には翻訳書の引用キー「ローズ 2008」を使用します。その際、本文中の引用書式は「Rosen (2005 村田監訳 2008)」のようになります。

■ bib エントリ

原書のエントリ

```
@book{Rosen2005,  
  author      = {Rosen, N. J.},  
  date        = {2005},  
  title       = {If only},  
  subtitle    = {How to turn regret into opportunity},  
  location    = {New York},  
  publisher   = {Broadway}  
}
```

翻訳書のエントリ

```
@book{ローズ 2008,  
  author      = {ローズ, N. J.},
```



```

sortname      = {Rosen, N. J.},
date          = {2008},
translator    = {村田, 光二},
translatortype = {監訳},
title         = {後悔を好機に変える},
subtitle      = {イフ・オンリーの心理学},
publisher     = {ナカニシヤ出版},
language      = {japanese},
related       = {Rosen2005},
relatedtype   = {translationof},
}

```

出力結果

Rosen, N. J. (2005). *If only: How to turn regret into opportunity*. Broadway.

(ローズ, N. J. 村田 光二 (監訳) (2008). 後悔を好機に変える——イフ・オンリーの心理学—— ナカニシヤ出版)

4.1.8 再版

『執筆・投稿の手びき』では、このタイプは英語書籍についてのみ記載されています。このタイプの文献は、book タイプのエントリに origdate と origpublisher を記入する形で作成します。

```

@book{引用キー,
  author      = {著者名},
  date        = {刊行年},
  title       = {書籍タイトル},
  publisher   = {出版社},
  origdate    = {原書刊行年},
  origpublisher = {原書出版社},
}

```

この場合の入力例は次のとおりです。この文献を引用する場合、本文中の引用形式は「Adler (1930/1970)」のようになります。

■ bib エントリ

```

@book{Adler1970,
  author      = {Adler, A.},

```

```

date          = {1970},
title         = {The education of children},
publisher     = {Gateway},
origdate      = {1930},
origpublisher = {George Allen & Unwin},
}

```

出力結果

Adler, A. (1970). *The education of children*. Gateway. (Original work published 1930, George Allen & Unwin)

4.1.9 自費出版

『執筆・投稿の手びき』では、このタイプは日本語書籍についてのみ記載されています。手引きに記載されているように、このタイプは通常の書籍と同じ形式で出版社を（自費出版）とするだけです。通常の書籍の場合と同様に book タイプのエントリとして作成し、出版社に（自費出版）と入力すれば大丈夫です。

4.2 逐次刊行物

次に、学術論文など逐次刊行物の場合について説明します。

4.2.1 論文

論文の文献リスト形式については、著者名の区切りが異なることなどを除けば、文字書籍の場合ほど日本語と英語で違いがありません。論文は、article タイプのエントリーとして作成します。

```

@article{引用キー,
  author = {著者名},
  date   = {刊行年},
  title  = {表題},
  journal = {雑誌名},
  volume = {巻数},
  number = {号数}, *巻をとおしてページ番号が付与されている場合は省略可
  pages  = {ページ数},
  doi    = {doi}, *ない場合は省略
}

```

英語論文の場合のエントリは次のようになります。

■ bib エントリ

```
@article{Takahashi2017,  
  author = {Takahashi, N. and Isaka, Y. and Yamamoto, T. and Nakamura, T.},  
  date   = {2017},  
  title  = {Vocabulary and Grammar Differences Between Deaf and Hearing  
           Students},  
  journal = {Journal of Deaf Studies and Deaf Education},  
  volume = {22},  
  number = {1},  
  pages  = {88-104},  
  doi    = {10.1093/deafed/enw055},  
}
```

出力結果

Takahashi, N., Isaka, Y., Yamamoto, T., & Nakamura, T. (2017). Vocabulary and Grammar Differences Between Deaf and Hearing Students. *Journal of Deaf Studies and Deaf Education*, 22 (1), 88–104.
<https://doi.org/10.1093/deafed/enw055>

出力結果

日本語論文の場合も、文献エントリは同じ形です。

■ bib エントリ

```
@article{川上 2019,  
  author   = {川上, 直秋},  
  sortname = {Kawakami, Naoaki},  
  date     = {2019},  
  title    = {指先が変える単語の意味},  
  subtitle = {スマートフォン使用と単語の感情価の関係},  
  journal  = {心理学研究},  
  volume   = {91},  
  number   = {1},  
  pages    = {23-33},  
  doi      = {10.4992/jjpsy.91.18060},  
  language = {japanese},  
}
```

出力結果

川上 直秋 (2019). 指先が変える単語の意味——スマートフォン使用と単語の感情価の関係——. 心理学研究, 91(1), 23-33. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.91.18060>

なお、2022 年版の書式では、APA スタイルの第 7 版に合わせ、著者名を最大 20 人まで記載することになりました。著者が 20 人を超える場合は、19 人まで名前を記載したのち、「...」で途中を省略して最後の著者名を書くというのがルールです。連名著者が 20 人を超える場合というのはそうそうないと思いますが、jpa スタイルではこの書式にそって、エントリに含まれる著者数が 20 を超える場合に 20 人目以降の著者名を自動的に「...」で省略して表示するようにしてあります。実際に著者数が 20 名を超える論文の例を見つけることができなかったので、架空の文献を例に見てみましょう。

■ bib エントリ

```
@article{Wiskunde2019,
  author = {Wiskunde, B. and Arslan, M. and Fischer, P. and Nowak, L. and
            Van den Berg, O. and Coetzee, L. and Juárez, U. and
            Riyaziyyat, E. and Wang, C. and Zhang, I. and Li, P. and
            Yang, R. and Kumar, B. and Xu, A. and Martinez, R. and
            McIntosh, V. and Ibáñez, L. M. and Mäkinen, G. and Virtanen, E.
            and Simisola Kristine and Neasa Méabh and Sebastião Moana
            and Kamala Livia and Bruno Céleste and Kovács, A.},
  date   = {2019},
  journal = {Journal of Improbable Mathematics},
  title   = {Indie pop rocks mathematics},
  subtitle = {Twenty One Pilots, Nicolas Bourbaki, and the empty set},
  volume  = {27},
  number  = {1},
  pages   = {1935-1968},
  doi     = {10.0000/3mp7y-537},
}
```

出力結果

Wiskunde, B., Arslan, M., Fischer, P., Nowak, L., Van den Berg, O., Coetzee, L., Juárez, U., Riyaziyyat, E., Wang, C., Zhang, I., Li, P., Yang, R., Kumar, B., Xu, A., Martinez, R., McIntosh, V., Ibáñez, L. M., Mäkinen, G., Virtanen, E., ... Kovács, A. (2019). Indie pop rocks mathematics: Twenty One Pilots, Nicolas Bourbaki, and the empty set. *Journal of Improbable Mathematics*, 27 (1), 1935-1968. <https://doi.org/10.0000/3mp7y-537>

日本語の場合についても、見ておきます。こちらも架空の文献です。

■ bib エントリ

```
@article{大谷 2022,
author   = {大谷, 美貴 and 岡田, あかり and 丸山, 直樹 and 松井, 奈緒美 and
            眞鍋, 久美子 and 坂本, 諒 and 山本, 淳一 and 西村, 一也 and 春日, 麻衣
            and 清水, 真 and 阿部, 竜太 and 島田, 悠 and 谷口, 幸治 and
            上田, 久美子 and 小林, 里恵 and 岡本, 有香 and 白井, 太郎 and
            鈴木, 敏行 and 佐々木, 智恵美 and 山田, 徹 and 多田, 剛 and
            中島, 奈津子 and 谷口, 昭彦 and 野田, 愛 and 高木, 由紀子},
sortname = {Oya, Miki and Okada, Akari and Maruyama, Naoki and Matsui, Naomi
            and Manabe, Kumiko and Sakamoto, Ryo and Yamamoto, Junichi and
            Nishimura, Kazuya and Kasuga, Mai and Shimizu, Makoto and
            Abe, Ryuta and Shimada, Yu and Taniguchi, Koji and Ueda, Kumiko
            and Kobayashi, Satoe and Okamoto, Yuka and Shirai, Tarou and
            Suzuki, Toshiyuki and Sasaki, Chiemi and Yamada, Toru and
            Tada, Tsuyoshi and Nakajima, Natsuko and Taniguchi, Akihiko
            and Noda, Ai and Takagi, Yukiko},
date      = {2022},
title     = {マジカルナンバー 20},
subtitle  = {20 を超えると何かが起こる},
journal   = {架空心理学研究},
volume    = {32},
number    = {3},
pages     = {80-89},
doi       = {35.3582/fmp-2pahm},
language  = {japanese},
}
```

出力結果

大谷 美貴・岡田 あかり・丸山 直樹・松井 奈緒美・眞鍋 久美子・坂本 諒・山本 淳一・西村 一也・春日 麻衣・清水 真・阿部 竜太・島田 悠・谷口 幸治・上田 久美子・小林 里恵・岡本 有香・白井 太郎・鈴木 敏行・佐々木 智恵美 ... 高木 由紀子 (2022). マジカルナンバー 20——20 を超えると何かが起こる—— 架空心理学研究, 32 (3), 80-89. <https://doi.org/35.3582/fmp-2pahm>

4.2.2 年間に2冊以上刊行があるが巻数がない場合

これは日本語の場合に関してのみ指定があるタイプの文献です。『投稿・執筆の手びき』では分けて書かれていますが、巻数がない場合は volume フィールドが空欄になるだけで、あとは通常の article タイプのエントリと変わりません。

■ bib エントリ

```
@article{齊藤 2019,  
  author    = {齊藤, 慈子},  
  sortname  = {Saito, Atsuko},  
  date      = {2019},  
  title     = {時に手を抜くイクメン, マーモセットのパパ},  
  subtitle  = {38 年間のトレンド},  
  journal   = {心理学ワールド},  
  number    = {86},  
  pages     = {25-26},  
  language  = {japanese},  
}
```

出力結果

齊藤慈子 (2019). 時に手を抜くイクメン, マーモセットのパパ——38 年間のトレンド—— 心理学ワールド, No. 86, 25-26.

4.2.3 年報・年鑑

年報や年鑑、白書などは、report タイプのエントリとして作成します。出版社名・発行機関名は、institution フィールドを使用します。巻数や号数がある場合は、volume フィールドや number フィールドを追加してください。

```
@report{引用キー,  
  author    = {著者名},  
  date      = {刊行年},  
  title     = {タイトル},  
  institution = {出版社・発行機関},  
}
```

■ bib エントリ

```
@report{法務総合研究所 2019,
  author    = {法務総合研究所},
  sortname  = {Houmusougoukenkyujo},
  date      = {2019},
  title     = {令和元年版 犯罪白書},
  subtitle  = {平成の刑事政策},
  institution = {昭和情報プロセス},
  language  = {japanese}
}
```

出力結果

法務総合研究所 (2019). 令和元年版 犯罪白書——平成の刑事政策—— 昭和情報プロセス

4.2.4 紀要，その他

日本語文献では、紀要について別立てで説明されていますが、これらは基本的に通常の論文の場合と同じです。article タイプのエントリとして作成します。

■ bib エントリ

```
@article{中道 2019,
  author    = {中道, 圭人},
  sortname  = {Nakamichi, Keito},
  date      = {2019},
  title     = {幼児における他者の感情推測のための表情と身体的手がかりの利用},
  journal    = {千葉大学教育学部研究紀要},
  volume    = {67},
  pages     = {285-292},
  language  = {japanese},
}
```

出力結果

中道 圭人 (2019). 幼児における他者の感情推測のための表情と身体的手がかりの利用 千葉大学教育学部研究紀要, 67, 285-292.

4.3 オンライン資料

ここでは、オンライン資料を引用する際のエントリ作成方法について見ていきます。

4.3.1 刊行された冊子体がある場合

この場合のエントリは、通常の学術論文と同じです。article タイプの文献としてエントリを作成します。

4.3.2 オンライン早期公開

冊子体が刊行される前にオンラインで早期公開されているものについては、article タイプの文献としてエントリを作成し、howpublished フィールドに「Advance online publication」と入力します。また、doi フィールドに doi を記載するのを忘れないでください。

```
@article{引用キー,  
  author      = {著者名},  
  date        = {刊行年},  
  title       = {表題},  
  journal     = {雑誌名},  
  volume      = {巻数},  
  number      = {号数}, *巻をとおしてページ番号が付与されている場合は省略可  
  pages       = {ページ数},  
  howpublished = {Advance online publication},  
  doi         = {doi},  
}
```

■ bib エントリ

```
@article{Yokoyama2020,  
  author      = {Yokoyama, T. and Kato, R. and Inoue, K. and Takeda, Y.},  
  date        = {2020},  
  title       = {Cuing Effects by Biologically and Behaviorally Relevant Symbolic  
                Cues},  
  journal     = {Japanese Psychological Research},  
  doi         = {10.1111/jpr.12318},  
  howpublished = {Advance online publication}  
}
```

出力結果

Yokoyama, T. (2020). Cuing Effects by Biologically and Behaviorally Relevant Symbolic Cues. *Japanese Psychological Research*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1111/jpr.12318>

■ bib エントリ

```
@article{金政 2021,
  author      = {金政, 祐司 and 古村, 健太郎 and 浅野, 良輔 and 荒井, 崇史},
  sortname    = {Yuji Kanemasa and Kentaro Komura and Ryosuke Asano and
                  Takashi Arai},
  date        = {2021},
  title       = {愛着不安は親密な関係内の暴力の先行要因となり得るのか?},
  subtitle    = {恋愛関係と夫婦関係の縦断調査から},
  journal     = {心理学研究},
  doi         = {10.4992/jjpsy.92.20013},
  howpublished = {Advance online publication},
  language    = {japanese},
}
```

出力結果

金政 祐司・古村 健太郎・浅野 良輔・荒井 崇史 (2021). 愛着不安は親密な関係内の暴力の先行要因となり得るのか?——恋愛関係と夫婦関係の縦断調査から—— 心理学研究 Advance online publication. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.92.20013>

4.3.3 プレプリントされている文献

プレプリントの文献を引用する場合は, online タイプのエントリを作成します。online タイプでは, eprinttype フィールドにアップロードサイト名を記載します。

```
@online{引用キー,
  author      = {著者名},
  date        = {刊行年},
  title       = {表題},
  eprinttype  = {アップロードサイト名},
  doi         = {doi},
}
```

■ bib エントリ

```
@online{Yoshimura2021,
  author      = {Yoshimura, N. and Morimoto, K. and Murai, M. and Kihara, Y. and
```

```

Marmolejo-Ramos, F. and Kubik, V. and Yamada, Y.},
date      = {2021},
title     = {Age of smile},
subtitle  = {A cross-cultural replication report of Ganel and
            Goodale (2018)},
eprinttype = {PsyArXiv},
doi       = {10.31234/osf.io/dtx6}
}

```

出力結果

Yoshimura, N., Morimoto, K., Murai, M., Kihara, Y., Marmolejo-Ramos, F., Kubik, V., & Yamada, Y. (2021). *Age of smile: A cross-cultural replication report of Ganel and Goodale (2018)*. PsyArXiv. <https://doi.org/10.31234/osf.io/dtx6>

4.3.4 オンラインでのみ閲覧可能で doi がある場合

オンラインでしか閲覧できない資料で doi があるものについては、通常の論文と同様に article タイプのエントリとして作成します。その際、必ず doi フィールドに doi を記載してください。

■ bib エントリ

```

@article{Katahira2020,
  author = {Katahira, K. and Kunisato, Y. and Yamashita, Y. and Suzuki, S.},
  date   = {2020},
  title  = {Commentary: ``A robust data-driven approach identifies four
            personality types across four large data sets.''},
  journal = {Frontiers in Big Data},
  volume = {3},
  pages  = {8},
  doi    = {10.3389/fdata.2020.00008},
}

```

出力結果

Katahira, K., Kunisato, Y., Yamashita, Y., & Suzuki, S. (2020). Commentary: “A robust data-driven approach identifies four personality types across four large data sets.” *Frontiers in Big Data*, 3, 8. <https://doi.org/10.3389/fdata.2020.00008>

■ bib エントリ

```

@article{矢嶋 2013,

```

```

author    = {矢嶋, 美保 and 長谷川, 晃},
sortname  = {Yajima, Miho and Hasegawa, Akira},
date      = {2013},
title     = {家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響},
subtitle  = {日本の親子のデータを用いた検討},
journal   = {感情心理学研究},
volume    = {27},
number    = {3},
pages     = {83-94},
doi       = {10.4092/jsre.27.3_83},
language  = {japanese},
}

```

出力結果

矢嶋 美保・長谷川 晃 (2013). 家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響——日本の親子のデータを用いた検討——. 感情心理学研究, 27 (3), 83–94. https://doi.org/10.4092/jsre.27.3_83

4.3.5 オンラインでのみ閲覧可能で、doi がない場合

オンラインのみの資料で doi がないものについては、online タイプのエントリとして作成し、organization フィールドにウェブサイト名を記載します。また、その資料の URL を url フィールドに、アクセス日時を urldate フィールドに記載します。urldate は date 型の入力しか受け付けませんので、英語文献の場合も日本語文献の場合も year-month-date の形式で入力してください。

```

@online{引用キー,
  author      = {著者名},
  date        = {刊行年},
  title       = {表題},
  organization = {ウェブサイト名},
  url         = {資料の URL},
  urldate     = {アクセス日時},
}

```

■ bib エントリ

```

@online{Abrams2020,
  author      = {Abrams, Z.},

```

```

date          = {2020},
title         = {Building a safe space in the pandemic},
organization  = {American Psychological Association},
url           = {https://www.apa.org/topics/covid-19/pandemic-safe-space#},
urldate       = {2021-12-31}
}

```

出力結果

Abrams, Z. (2020). *Building a safe space in the pandemic*. American Psychological Association. Retrieved December 31, 2021, from <https://www.apa.org/topics/covid-19/pandemic-safe-space#>

■ bib エントリ

```

@online{日本心理学会 2022,
  author      = {日本心理学会},
  sortname    = {Nihonshinrigakkai},
  date        = {2022},
  title       = {執筆・投稿の手びき 2022 年版},
  organization = {日本心理学会},
  url         = {https://psych.or.jp/manual/},
  urldate     = {2022-10-25},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

日本心理学会 (2022). 執筆・投稿の手びき 2022 年版 日本心理学会. Retrieved October 25, 2022 from <https://psych.or.jp/manual/>

4.4 その他

4.4.1 学位論文

博士論文や修士論文など、学位論文は `thesis` タイプのエントリとして作成します。このタイプのエントリでは、`institution` フィールドに学位授与機関（大学）の名称、`type` フィールドに論文種別（修士論文、博士論文など）を記載します。

```

@thesis{引用キー,
  author      = {著者名},

```

```

date      = {刊行年},
title     = {表題},
institution = {学位授与機関（大学）の名称},
type      = {論文種別},
}

```

■ bib エントリ

```

@thesis{Tsukamoto2015,
  author      = {Tsukamoto, S.},
  date        = {2015},
  title       = {The Role of Psychological Essentialism in Intergroup Attitude
                 Formation},
  institution = {Kyoto University},
  type        = {Unpublished master's thesis}
}

```

出力結果

Tsukamoto, S. (2015). *The Role of Psychological Essentialism in Intergroup Attitude Formation* (Unpublished master's thesis). Kyoto University.

■ bib エントリ

```

@thesis{向田 2009,
  author      = {向田, 久美子},
  sortname    = {Mukaida, Kumiko},
  date        = {2009},
  title       = {語りに見るライフ・スクリプトの文化心理学的研究},
  subtitle    = {文化圏間比較と世代間比較を通して},
  institution = {白百合女子大学大学院},
  type        = {博士論文},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

向田 久美子 (2009). 語りに見るライフ・スクリプトの文化心理学的研究——文化圏間比較と世代間比較を通して—— 白百合女子大学大学院博士論文

4.4.2 学会発表

学会発表は、inproceedings タイプのエントリとして作成します。予稿集や抄録などがある場合は、その名称を booktitle フィールドに、掲載ページ数を pages フィールドに記載します。それ以外の場合には、大会名を eventtitle フィールドに、開催地名を location フィールドに、発表形式を type フィールドに記載します。

予稿集などがある場合

```
@inproceedings{引用キー,  
  author      = {著者名},  
  date        = {刊行年},  
  title       = {表題},  
  booktitle   = {ウェブサイト名},  
  pages       = {資料の URL},  
}
```

予稿集などがない場合

```
@inproceedings{引用キー,  
  author      = {著者名},  
  date        = {発表年},  
  title       = {表題},  
  type        = {発表形式},  
  eventtitle  = {大会名},  
  location    = {開催地名},  
}
```

■ bib エントリ

```
@inproceedings{0e2016,  
  author      = {Oe, T. and Aoki, R. and Numazaki, M.},  
  date        = {2016},  
  title       = {Perceived causal attributions of body temperature increase  
                 as a moderator of the effects of physical warmth on implicit  
                 associations of social warmth},  
  type        = {Poster presentation},  
  eventtitle  = {The 17th Annual Meeting of the Society for Personality and Social  
                 Psychology},  
}
```

```
location = {San Diego, CA.}
}
```

出力結果

Oe, T., Aoki, R., & Numazaki, M. (2016). *Perceived causal attributions of body temperature increase as a moderator of the effects of physical warmth on implicit associations of social warmth* [Poster presentation]. The 17th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego, CA.

■ bib エントリ

```
@inproceedings{都築 2018,
  author = {都築, 誉史 and 武田, 裕司 and 千葉, 元気},
  sortname = {Tsuzuki, Takashi and Takea, Yuji and Chiba, Genki},
  date = {2018},
  title = {認知資源が多肢選択意思決定における魅力効果に及ぼす影響},
  subtitle = {聴覚プローブ法を用いた実験的検討},
  booktitle = {日本心理学会第 82 回大会発表論文集},
  pages = {493},
  language = {japanese}
}
```

出力結果

都築 誉史・武田 裕司・千葉 元気 (2018). 認知資源が多肢選択意思決定における魅力効果に及ぼす影響——聴覚プローブ法を用いた実験的検討—— 日本心理学会第 82 回大会発表論文集, 493.

4.4.3 印刷中の論文

掲載されることは確定しているが未刊行の論文については, `article` タイプエントリの `date` フィールドを空欄にし, `pubstate` フィールドに「印刷中」など, 現在の状態を記載します。

```
@article{引用キー,
  author = {著者名},
  title = {表題},
  journal = {雑誌名}
  pubstate = {状態},
}
```

■ bib エントリ

```
@article{OSeaghdha99,  
  author   = {O'Seaghdha, P. G.},  
  title    = {Across the great divide},  
  subtitle = {Proximate units at the lexical-phonological interface},  
  journal  = {Japanese Psychological Research},  
  pubstate = {in press},  
}
```

出力結果

O'Seaghdha, P. G. (in press). Across the great divide: Proximate units at the lexical-phonological interface.
Japanese Psychological Research.

■ bib エントリ

```
@article{長谷川 99,  
  author   = {長谷川, 龍樹 and 多田, 奏恵 and 米満, 文哉 and 池田, 鮎美 and  
             山田, 祐樹 and 高橋, 康介 and 近藤, 洋史},  
  sortname = {Ryuju Hasegawa and Kanae Tada and Fumiya Yonemitsu and Ayumi Ikeda  
             and Yuki Yamada and Kohske Takahashi and Hirohito M. Kondo},  
  journal  = {心理学研究},  
  title    = {実証的研究の事前登録の現状と実践},  
  subtitle = {OSF 事前登録チュートリアル},  
  pubstate = {印刷中},  
  language = {japanese},  
}
```

出力結果

長谷川 龍樹・多田 奏恵・米満 文哉・池田 鮎美・山田 祐樹・高橋 康介・近藤 洋史 (印刷中). 実証的研究の事前登録の現状と実践——OSF 事前登録チュートリアル—— 心理学研究

4.4.4 新聞記事および雑誌記事の引用

新聞記事などを引用する場合は、misc（その他）タイプとしてエントリを作成します。発行日については、朝刊・夕刊などの区別を含め、howpublished フィールドに記載します。

```
@misc{引用キー,
```



```

author      = {著者名},
date        = {発行年},
title       = {資料表題},
journaltitle = {掲載紙（誌）名},
howpublished = {発行日・形態},
pages       = {掲載ページ},
}

```

■ bib エントリ

```

@misc{サトウ 2013,
  author      = {サトウ, タツヤ},
  sortname    = {Sato, Tatsuya},
  date        = {2013},
  title       = {ちょっとココロ学},
  subtitle    = {悩み事 どうやって打開?},
  journaltitle = {読売新聞},
  howpublished = {7 月 8 日夕刊},
  pages       = {7},
  language    = {japanese},
}

```

出力結果

サトウ タツヤ (2013). ちょっとココロ学——悩み事 どうやって打開?—— 読売新聞 7 月 8 日夕刊, 7.

引用文献

- Abrams, Z. (2020). *Building a safe space in the pandemic*. American Psychological Association. Retrieved December 31, 2021, from <https://www.apa.org/topics/covid-19/pandemic-safe-space#>
- Adler, A. (1970). *The education of children*. Gateway. (Original work published 1930, George Allen & Unwin)
- American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.). American Psychiatric Association.
- 浅野 倫子・横澤 一彦 (編) (2020). 共感覚——統合の多様性—— 横澤 一彦 (監修) シリーズ統合的認知 勁草書房
- Clement, E. (2002). *Cognitive Flexibility: The Cornerstone of Learning*. Wiley.
- Freud, S. (1956–1974). *Standard editions of complete psychological works of Sigmund Freud* (Vols.1–24). Hogarth Press.
- 藤永 保 (監修) (2013). 最新心理学事典 平凡社
- 箱田 裕司 (編) (2012). 認知 大山 正 (監修) 心理学研究法 2 誠信書房
- 長谷川 龍樹・多田 奏恵・米満 文哉・池田 鮎美・山田 祐樹・高橋 康介・近藤 洋史 (印刷中). 実証的研究の事前登録の現状と実践——OSF 事前登録チュートリアル—— 心理学研究
- 長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行 (2016). はじめて出会う心理学 第3版 有斐閣
- von Helmholtz, H. (1925). *Treatise on Physiological Optics* (Vol.3, J. P. C. Southall, Ed., & Trans.). Optical Society of America. (Original work published 1910)
- 堀 洋道 吉田 富二雄・松井 豊・宮本 聡介 (編) (2009). 新編 社会心理学 改訂版 福村出版
- 法務総合研究所 (2019). 令和元年版 犯罪白書——平成の刑事政策—— 昭和情報プロセス
- 一川 誠 (2016). 「時間の使い方」を科学する——思考は 10 時から 14 時, 記憶は 16 時から—— PHP 研究所
- Izard, C. E. (1996). *The psychology of emotions*. Plenum Press.
- (イザード, C. E. 莊巖 舜哉 (監訳) 比較発達研究会 (訳) (1996). 感情心理学 ナカニシヤ出版)
- 金政 祐司・古村 健太郎・浅野 良輔・荒井 崇史 (2021). 愛着不安は親密な関係内の暴力の先行要因となり得るのか? ——恋愛関係と夫婦関係の縦断調査から—— 心理学研究 Advance online publication. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.92.20013>
- Katahira, K., Kunisato, Y., Yamashita, Y., & Suzuki, S. (2020). Commentary: “A robust data-driven approach identifies four personality types across four large data sets.” *Frontiers in Big Data*, 3, 8. <https://doi.org/10.3389/fdata.2020.00008>
- Katz, D. (1935). *The world of colour* (R. B. MacLeod & C. W. Fox Trans.). Kegan Paul. (Original work published 1930)

- 川上 直秋 (2019). 指先が変わる単語の意味——スマートフォン使用と単語の感情価の関係—— 心理学研究, 91 (1), 23–33. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.91.18060>
- Lamb, M. E. (Ed.). (2015). *Socioemotional processes* (R. M. Lerner, Series Ed.). *Handbook of child psychology and developmental science. Vol.3*. Wiley.
- 松井 豊 (2010). 心理学論文の書き方——卒業論文や修士論文を書くために—— 改訂新版 河出書房新社
- 森川 和則 (2010). 知覚心理学は右肩下がりが、右肩上がりか——38 年間のトレンド—— 心理学ワールド, No. 51, 5–8.
- Morioka, M. (2018). On the constitution of self-experience in the psychotherapeutic dialogue. In A. Konopka, H. J. M. Hermans, & M. M. Gonçalves (Eds.), *Handbook of Dialogical Self Theory and Psychotherapy: Bridging Psychotherapeutic and Cultural Traditions* (pp. 206–219). Routledge.
- 向田 久美子 (2009). 語りに見るライフ・スクリプトの文化心理学的研究——文化圏間比較と世代間比較を通して—— 白百合女子大学大学院博士論文
- 内藤 美加 (2018). 記憶の発達と心的時間移動——自閉スペクトラム症の未解決課題再考—— 鈴木 國文・内海 健・清水 光恵 (編) 発達障害の精神病理 I (pp. 77–96) 星和書店
- 中道 圭人 (2019). 幼児における他者の感情推測のための表情と身体的手がかりの利用 千葉大学教育学部研究紀要, 67, 285–292.
- 中沢 潤・国本 小百合・祐宗 省三 (1978). 幼児の弁別学習——非次元性課題における過剰訓練効果—— 心理学研究, 49, 131–136.
- 日本心理学会 (2022). 執筆・投稿の手びき 2022 年版 日本心理学会 Retrieved October 25, 2022 from <https://psych.or.jp/manual/>
- 野島 一彦・繁枘 算男 (監修). (2018–2020). 公認心理師の基礎と実践 (全 23 巻) 遠見書房
- O'Seaghdha, P. G. (in press). Across the great divide: Proximate units at the lexical-phonological interface. *Japanese Psychological Research*.
- Oe, T., Aoki, R., & Numazaki, M. (2016). *Perceived causal attributions of body temperature increase as a moderator of the effects of physical warmth on implicit associations of social warmth* [Poster presentation]. The 17th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego, CA.
- Osaka, N., Rentschler, I., & Biederman, I. (Eds.) (2007). *Object recognition, attention, and action*. Springer.
- Overton, W. F. & Molenaar, P. C. M. (Eds.). (2015). *Theory and Method* (R. M. Lerner, Series Ed.), *Handbook of Child Psychology and Developmental Science. Vol.1*. Wiley.
- 大谷 美貴・岡田 あかり・丸山 直樹・松井 奈緒美・眞鍋 久美子・坂本 諒・山本 淳一・西村 一也・春日 麻衣・清水 真・阿部 竜太・島田 悠・谷口 幸治・上田 久美子・小林 里恵・岡本 有香・白井 太郎・鈴木 敏行・佐々木 智恵美 ... 高木 由紀子 (2022). マジカルナンバー 20——20 を超えると何かが起こる—— 架空心理学研究, 32 (3), 80–89. <https://doi.org/35.3582/fmp-2pahm>

- Rosen, L. D., Cheever, N., & Carrier, L. M. (2015). *The Wiley Blackwell Handbook of Psychology, Technology and Society*. Wiley.
- Rosen, N. J. (2005). *If only: How to turn regret into opportunity*. Broadway.
- (ローズ, N. J. 村田 光二 (監訳) (2008). 後悔を好機に変える——イフ・オンリーの心理学——ナカニシヤ出版)
- 齊藤 慈子 (2019). 時に手を抜くイクメン, マーモセットのパパ——38 年間のトレンド—— 心理学ワールド, No. 86, 25–26.
- 坂本 真士 (2013). 論文投稿に向けて——基礎から始める英語論文執筆—— 坂本 真士・大平 英樹 (編) 心理学論文道場 (pp. 16–50) 世界思想社
- 坂野 雄二・福井 知美・熊野 宏昭・堀江 はるみ・川原 健資・山本 晴義・野村 忍・末松 弘行 (1994). 新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の検討 心身医学, 34(8), 629–636. https://doi.org/10.15064/jjpm.34.8_629
- サトウ タツヤ (2013). ちょっとココロ学——悩み事 どうやって打開?—— 読売新聞 7月8日夕刊, 7.
- Takahashi, N., Isaka, Y., Yamamoto, T., & Nakamura, T. (2017). Vocabulary and Grammar Differences Between Deaf and Hearing Students. *Journal of Deaf Studies and Deaf Education*, 22(1), 88–104. <https://doi.org/10.1093/deafed/enw055>
- Tsukamoto, S. (2015). *The Role of Psychological Essentialism in Intergroup Attitude Formation* (Unpublished master's thesis). Kyoto University.
- 都築 誉史・武田 裕司・千葉 元気 (2018). 認知資源が多肢選択意思決定における魅力効果に及ぼす影響——聴覚プローブ法を用いた実験的検討—— 日本心理学会第 82 回大会発表論文集, 493
- Wiskunde, B., Arslan, M., Fischer, P., Nowak, L., Van den Berg, O., Coetzee, L., Juárez, U., Riyaziyyat, E., Wang, C., Zhang, I., Li, P., Yang, R., Kumar, B., Xu, A., Martinez, R., McIntosh, V., Ibáñez, L. M., Mäkinen, G., Virtanen, E., ... Kovács, A. (2019). Indie pop rocks mathematics: Twenty One Pilots, Nicolas Bourbaki, and the empty set. *Journal of Improbable Mathematics*, 27(1), 1935–1968. <https://doi.org/10.0000/3mp7y-537>
- 矢嶋 美保・長谷川 晃 (2013). 家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響——日本の親子のデータを用いた検討—— 感情心理学研究, 27(3), 83–94. https://doi.org/10.4092/jsre.27.3_83
- Yokoyama, T., Kato, R., Inoue, K., & Takeda, Y. (2020). Cuing Effects by Biologically and Behaviorally Relevant Symbolic Cues. *Japanese Psychological Research*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1111/jpr.12318>
- Yoshimura, N., Morimoto, K., Murai, M., Kihara, Y., Marmolejo-Ramos, F., Kubik, V., & Yamada, Y. (2021). *Age of smile: A cross-cultural replication report of Ganel and Goodale (2018)*. PsyArXiv. <https://doi.org/10.31234/osf.io/dtx6>